

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、高丘圏域） 第2回会議 議事録

開催日時	令和2年11月24日（火）9時30分から11時まで
参加者	委員：17人 事務局：1人 その他：11人（高齢者福祉課1人、中区長寿保険課1人、坂の上利用者連携支援センター2人、地域包括支援センター高丘6人、市社協1人）
場 所	北部協働センター2階 2・3講座室
内 容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 協議体会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>①コロナ禍での地域資源、地域活動の現状把握について</p> <p>◆現状報告発表（10分程度）</p> <p>◇事例を踏まえた報告 包括高丘／蓮井</p> <p>外出や人との交流する機会が減少→身体機能の低下 20名担当し5名が体調悪化 →外出が怖い、入院、介護保険の申請、サービスの利用増など デイサービスに行けなくなり家でテレビを見て生活 →転倒、入院、車いす生活へ 肺疾患がある方 →マスクすると苦しくて家に引きこもるようになり亡くなってしまった *コロナの影響も考えられる</p> <p>10月民生委員との交流会実施→足腰弱っている方がショートから入所へ 相談があった時の窓口＝どこにつなぐことができるか悩む</p> <p>◇地域の活動 葵・高丘地区社協／引野委員</p> <p>人が集まる行事は中止→少人数の会合は実施 サロン関係は11月頃から再開予定だったが中止 福祉教育は3校中1校のみ実施→体験（囲碁、将棋、手芸など） 朝夕の交通整理、社協だよりの広報活動は実施中 12・1月フードドライブに協力＝北部協働センターで回収（ポスター作成中） R3.8月～子ども食堂（週1回）実施予定で情報収集中</p> <p>◇地域の活動 萩丘中地区社協／小関委員</p> <p>コロナで中止→歳末事業は実施予定 地区社協の意義＝高齢者への支援（たすけあい支援事業など） 地域住民は地区社協の存在を知らない、認知度も低い →ニーズ調査実施中＝1自治会50人×4自治会 コロナ感染の責任がとれないと言う意見が多い →3密対策で前向きに！ 主催者＋参加者の感染対策</p>

◇事業所の活動 坂の上／中野

主事業はケアマネと地域活動→6月まで中止、8月中止、9月～再開
『認知症カフェ』月2回第2・4水曜日→80代5名参加（多い時10名程度）

*活動しないことで認知症が進むことを危惧している

子ども食堂はテイクアウトで再開（カレー30食／高齢者も含む）

感染対策（法人内に対策委員）

→2週間の健康観察（家族含む）ホームページ掲載

◇その他

・市社協地域支援課より

フードドライブ→NPOふじのくにへ協力、年2回（夏期・冬期）実施

子ども食堂→感染問題等で自粛、ストレス大

学習支援→感染対策して5ヶ所で実施中

・高丘圏域担当 CSW より

中区地区社協地域たすけあい支援事業

→13地区社協ある中11地区社協で実施中、家屋内支援は中止

個別支援→生活困窮に関する相談が増えている（高丘圏域在住者の相談多い）

・高齢者福祉課より

感染対策は主催者だけでなく参加する場合も注意→追跡調査できるように

*双方が気をつける、緩めてはいけない

施設管理が不十分だった＝クラスター発生

11/21 認知症講演会を雄踏で開催／聖隷三方原病院の磯貝 Dr

→200名収容を100名定員で50名の参加者（健康状況チェックシート持参）

②協議体の今後の方向性について

協議体と地域ケア会議（パワポにて説明）

包括高丘より、認知症関連事業の報告

やめることに慣れていないか？→形を変えて実施

認知症の方にやさしい街づくり→啓発活動の周知

12/12 徘徊模擬訓練予定→声掛けのスペシャリストをつくりたい

※認知症の啓蒙＝協議体会議で検討 委員了承

③意見交換、質疑応答

・民生委員だけでなく地域住民も理解や支援をしてほしい

・認知症の人かどうか見分けられない。

・マニュアルがない、何かわかるものがあるといい

・ある程度認知症の理解をしたいと思うが普段見かけないし認知症の判断が難しい

・認知症の人もいるが対応したことない、声掛けも分からない

	<p>4. 次回開催日程 令和3年2月26日(金)9時30分～11時 北部協働センター2階 2・3講座室 *事前打合せ;1月26日(火)10時～ 福祉交流センター3階団体事務室</p> <p>6. 閉会 協議体副会長</p>
今後の見通し等	<p>認知症の啓蒙について、協議体会議で検討していく。 「認知症」をテーマに、地域の見守りやつながりを深める。</p>